

講義名: 国際関係論B <秋> 曜日: 木1 担当教員名: 松村 昌廣		ナンバリングコード: POLS2410 曜時2:	
研究室: 聖アンデレ館10階1010号室		オフィスアワー: 事前アポで月～金(秋学期中)で双方の都合で日時は柔軟に行います	メールアドレス: masahiro@andrew.ac.jp
授業形態			
『講義』			
講義・演習概要			
国際関係論A(国際関係の諸理論)の履修を前提に、国際安全保障、国際政治経済、国際秩序の現状と課題を初歩的に考察する能力をつけることを目標とします。			
学習(到達)目標			
毎日、テレビや新聞の国際問題に関するニュースに触れていても、よく分からないことが多いでしょう。ニュースは断片的で、十分な説明もありません。ちゃんと理解するには体系的で理論的な準備が必要です。このため、この講義は国際関係論Aで履修した理論を駆使して、時事問題に具体的に触れながら、考察を深めていきます。			
講義・演習計画			
【第1回】 各論 軍事的側面 1-1) 安全保障			
【第2回】 1-2) 紛争			
【第3回】 1-3) まとめ			
【第4回】 経済的側面(貿易・金融・投資・技術・開発) 2-1)- (1) 市場機能中心主義 (金融)			
【第5回】 2-1)- (2) 市場機能中心主義(貿易)			
【第6回】 2-1)- (3) 市場機能中心主義(開発・技術)			
【第7回】 2-2) 国家機能中心主義			
【第8回】 2-3) 資本形成中心主義			
【第9回】 2-3) まとめ			
【第10回】 秩序づけのための組織化側面 3-1) 国際法			
【第11回】 3-2) 国際機構			
【第12回】 3-3) 国際レジーム			
【第13回】 3-4) まとめ			
【第14回】 4-1) 冷戦後の国際構造			
【第15回】 4-2) 日本の国際行動とその将来			
成績評価の方法			
試験	100%	レポート	その他
コメント	原則として、レポート試験(100%)。(既習の理論で現実の国際問題を説明させる形で、持ち帰りのレポート試験を課す。)ただし、受講者が少ない場合、レポート:50% 授業への積極的な参加(討論、発表、授業内課題等の評価を含む):50%。 コロナ禍で遠隔講義となった場合は、M-PORTを介したレポート試験とする。完全論述形式(4000字～5000字)で行うため、論文作成が苦手な学生は、登録の際、充分注意するよう。		
テキスト			
著書	ポール・R・ピオティ、マーク・V・ウェッセルズ	タイトル	『国際関係論 ― 現実主義・多元主義・グローバリズム』
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	(絶版であるので、学生には入手可能な措置をとる)
著書	ロバート・ギルピン	タイトル	『世界システムの政治経済学』
ISBN		出版社	東洋経済新報社
教科書購入区分	選択なし	備考	(絶版であるので、学生には入手可能な措置をとる)
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)			
講義に合わせて、テキストの該当部分を予習・復習で読解すること。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			
(旧:国際関係論)02～19E・SS・SW・B・L・J生読替☆国際関係論Aを修得した者のみ履修可能			